

## ハイハイプロジェクト実施報告書

- 1 実施日 平成27年3月2日(月)、3日(火)、4日(水)
- 2 実施団体 宮城県東部保健福祉事務所(石巻保健所)
- 3 実施場所、参加状況等

日	時間	場 所	内 容	人数	
3/2 ① ②	10:00～ 11:30	石巻市立橋浦保育所	発達を促す関わり、体を使った遊びの体験	0歳～ 2歳	園児: 41名 保育士: 7名 保健師: 1名
	3歳～ 5歳				
	13:00～ 15:00		乳幼児運動発達支援研修会 (保育士、保健師)	保育士: 7名 保健師: 1名	
3/3 ③	10:00～ 11:00	石巻市たんぼぼ広場 (かもめ学園)	親子で楽しく遊ぼう！ 運動発達を促す関わりの体験 (親子、保育士、保健師) カンファレンスでアドバイス	幼児: 18名 保護者: 17名 スタッフ: 9名	
3/3 ④	15:00～ 17:00		発達障害児に対する指導	児童: 4名 スタッフ: 4名	
3/4 ⑤	10:00～ 11:30	石巻市大谷地保育園	発達を促す関わり、体を使った遊びの体験(1歳～6歳)	園児: 41名 保育士: 6名	

- 4 冊子配布 「ハイハイのすすめ」 23部
- 5 研修会アンケート結果 別添のとおり
- 6 実施内容

① 発達を促す関わり、体を使った遊びの体験(0歳児～5歳児)

年齢差が大きいため2班に分けて実施。

(0歳児～2歳児)

発育発達に沿った運動遊びの指導、保育士や保健師がサポート。

- ・手で体をさする(手、足、脚、お腹、顔など)
  - ・寝返り、ハイハイ(マットを利用して)、座位の運動
  - ・平均台で「渡る」、フープを途中において「渡りながらくぐる」、グラグラする体験
- (3～5歳児)
- ・前後でかけっこ、片足立ち、そんきょ姿勢でモニタリング
  - ・大きな声で1～10、うつ伏せでの運動(肘支持、手支持)、寝返り、ずり這い、ハイハイの運動、座位での運動
  - ・グラグラする運動遊び

平均台を使い渡る、渡りながら「またぐ」「くぐる」の課題を加えていく

始めは恐る恐るやっている子供も、順を追って行ううちに表情がどんどん変わっていく。

最後は「まだやりたい」と意欲が出てきた。

ここの園児は全体に体がしっかりしているように感じた。園庭も広く木登りや土いじりもできる環境で、寒くても1回は外に出るようにしているとのこと。給食も地域とれた野菜など使い、手をかけて調理していることが素晴らしい。一番人気はカレー、2番がレバーというから驚きである。やはり、環境の影響が考えられる。

年中児でモンゴルから来日した子がいて、その子の運動発達が非常に良く、たくましく育っている様子を聞いて、「やはり、環境だね！」と一同納得。

② 乳幼児運動発達支援研修会（専門職向けに前回と同内容）アンケート結果別添

今回も専門職（保健師、保育士）向けに前回と同内容で実施。

午前中の実技を見てもらってからの話だったことで、運動の意味など理論とつながりやすかったと思う。また、モンゴルのお子さんがいたことで、環境が人の体を作るということが理解しやすかったようだ。

③ 親子で楽しく遊ぼう！ 運動発達を促す関わりの体験

このたんぽぽ広場は、1歳6ヶ月健診でフォローが必要と言われた児が対象で、落ち着きがなく走りっぱなしの子も数名いた。

親子での運動は、体を触ることから始めて、逆さまになるような運動遊び、ハイハイ、転がることを中心に行った。

坂道を作って転がることはみんなが喜んで、早くやりたくて順番を守れなくて困らせている子もいた。

子供の喜ぶ様子を見て「こんなふうに遊べるんだ～」「こんなこともできるんだ」とお母さん方が驚いていたそうである。

いつも指導を行っている保育士さんは、一生懸命に考え、盛りだくさんのメニューを提供しているそうである。（余裕がない）

今回私が指導を行うことで、お母さんや子どもの表情をしっかりと見ることができたこと、指導内容も詰め込みすぎていたのかな？と気づきがあった様子だった。

④ かもめ学園での指導（発達障害のある子ども対象）

対象の子ども達は、ご専門の方の指導を受けている子たちなので、発育発達に沿った運動の中で、転がることや四つ這いで動くことで体を支える力がついてくることをお話しして、マットなど実際にある用具類を使って体験してもらった。

⑤ 発達を促す関わり、体を使った遊びの体験（1歳～6歳）

この園は、以前の研修会でお一人の保育士さんが参加されて、機会があれば園に来てもらいたいという希望があったことから今回訪問した。

お遊技場が非常に狭かったことと、マットなどの用具も少なかったが、あるものを使って行った。年齢差もあったことから2組に分けて行う。

(1～3歳)

- ・足や体をなでる、ずり這い、ハイハイの運動
- ・坂道を作って転がる ⇒ 渡る（ボックスをつなげてその上を歩く）のコース

(4～6歳)

- ・モニタリング（片足立ち、そんきょ姿勢）を前後で行う
- ・大きな声で数える、うつ伏せでの運動（肘支持、手支持）、ハイハイ競争、座位の運動
- ・坂道を作って転がる ⇒ 渡る、渡りながら障害物を「またぐ」「くぐる」などの課題を増やしながらかち落ちないようにコースを歩く。

子供たちはグラグラすることや転がるのが大好きなので、「面白い！！」と言いながら行っていた。最後の片足立ちは、始めに比べてフラフラする子が少なくなり、体幹が安定した様子が窺えた。

#### 【所感】

毎回保育士さんから言われることの一つに、「保護者にもこの話を聞いてもらいたい」ということです。私の経験からも、保育士や保健師が現場で活動しやすいためにも共通理解でることが望ましいと思います。

今回も体がフニャフニャする子の相談があり、家での様子を聞くと抱っこが多いなど体を使って遊ばせていないことが分かりました。また、基本的な生活リズムが上手く出来ていない様子も浮かんでいます。このことは、被災地だからということではなく、全国的に同様なことが起こっていると思われます。

だからこそ、一生の根っこを作る乳幼児期に適切な関わりができるために「何が必要か」を知ってもらうことが大切になると考えます。

そして、そのキーマンが、保健師・保育士などの専門職であると思います。

10月から5回、延べ11日間にわたり宮城県石巻保健所管内の二市一町で、ハイハイプロジェクトを進めてきたことは大変貴重な体験をしたと思います。毎回毎回、研修に参加している方の真剣な眼差しに身が引き締まる思いで伝えさせていただきました。

研修に参加した専門職は今さらながらに「ハイハイの大切さ」を再確認できたり、保育園や、子育て支援センターでの実技指導も実際に見たりしたことで、少なからず現場で活用するヒントになってくれものと思います。

石巻保健所ではこの事業後、専門職が業務の中での変化や子どもたちの変化について調査していきたいといっていたので、今後の調査結果に期待したいと思います。

このプロジェクトを通じて、乳幼児期の根っこづくり「ハイハイのすすめ」の大切さをもっと多くの方に知ってもらうことと、今後の課題として「ハイハイのすすめ」や子育ての環境が定着するためにどうしていけばいいかを考えていくことであると思います。

東北の真の復興のために、これからを支えていく子どもたちが元気で育っていくことを願

い、できることを続けていきたいと思ひます。

平成27年3月31日

報告者 樋口和子